

(様式1)

# 環境配慮検討書

桑建第 383 号  
令和4年7月19日

三重県環境調整システム推進会議 部会長 様

三重県桑名建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	一般県道畑毛東貝野阿下喜線 道路改良事業	
連絡先	担当課所名	桑名建設事務所 道路課
	電話番号	0594-24-3664

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	一般県道畑毛東貝野阿下喜線 道路改良事業	
(2)目的	<p>三重県道畑毛東貝野阿下喜線及び畑毛本郷線は、いなべ市北勢町東貝野、畑毛、向平、藤原町日内等、東西に渡る各地域を連絡する生活道路である。当該区間では、近年、東海環状自動車道の開通を見据えて近隣地域への企業進出が進んでおり、東西の物流ルートとして重要な路線となるが、幅員狭隘により自動車の対向も困難な状況にある。</p> <p>本事業は、三重県道畑毛東貝野阿下喜線及び畑毛本郷線について安全かつ円滑な交通の確保のため、新たなルートでの道路整備を行うものである。</p>	
(3)事業主体	三重県 桑名建設事務所	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	三重県いなべ市北勢町東貝野～藤原町日内
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) 配置図を添付すること	<p>道路規格：第3種第3級 設計速度：40km/h 道路幅員：W=9.5m (路肩0.75m+車道3.0m+車道3.0m+路肩0.75m+歩道2.0m) 既設橋活用区間では路肩幅員0.50mとする。 また、歩道整備は一部区間に限る。 道路計画延長：L=約3.4km</p>
	用水の使用計画	なし
	エネルギーの使用計画	なし
	雨水、汚水の排水計画	雨水は道路側溝等を経由して河川に導く想定である。 なお、汚水の発生要因はない。
	道路・交通計画	<p>現況交通量：畑毛本郷線547台/日（平成27年度道路交通センサス） 計画交通量：29～48百台/日</p>
	工期	<p>ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期</p> <p>・着工：未定 ・完工：未定 ・供用：未定</p>
(5)関連事業計画	桑員山麓縦断道路（産業道路）構想、東貝野南中津原丹生川停車場線の整備、東海環状自動車道の整備	
(6)その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	平成27年度道路交通センサスによると、畑毛本郷線の現況交通量は547台/日となっている。なお、起点方で接続する畑毛東貝野阿下喜線は272台/日、中間で接続する南濃北勢線及び川原北勢インター線はそれぞれ3,154台/日及び1,265台/日、終点方で接続する時下野尻線は1,891台/日となっている。 道路線形は、丘陵地・平地を通過するルートであり、線形不良且つ道路幅員が狭くなっている。
	土地利用の現況	ルートは農業地域及び森林地域を通過する。丘陵地は主に森林となっており、平地は主に農地として利用されているほか、いなべ市北勢町東貝野、西貝野、畑毛、向平、藤原町日内の集落が存在する。また、畑毛集落には、十社小学校が存在する。 また、道路周辺に太陽光発電所、工場が点在している。
	水域利用の現況	「令和2年度 三重県の水道概況」(三重県)によると、いなべ市の水道水の年間取水量(令和元年度)は7,176千 $m^3$ であり、水源は浅井戸(6,210千 $m^3$ )及び湧水(966千 $m^3$ )となっている。 また、「員弁川水系河川整備計画」(三重県)によると、員弁川とその支川を含む水系全体において、沿線農地のかんがい用水として取水されている。
	生活関連施設の現況	周辺には、以下の生活環境施設が存在する。 1) 学校施設：十社小学校、ふじわら保育園 2) 医療施設：特になし 3) 文化施設：藤原子育て支援センターつくしんぼ 4) その他：特になし
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	1) 自然環境保全地域：指定なし 2) 自然公園：指定なし 3) 鳥獣保護区：指定なし
	土地利用規制の現況	1) 都市計画法：規制なし 2) 農業地域振興法：規制あり(農用地区域) 3) 森林法等：規制あり(保安林) 4) 砂防法等：規制あり(砂防指定地・砂防指定河川、急傾斜地崩壊危険区域) 5) 河川法：規制あり(河川区域：二級河川員弁川) 6) 土砂災害防止法：規制あり(土砂災害特別警戒区域・同警戒区域) 7) 文化財保護法：規制あり(遺跡等) 8) 三重県景観計画：規制あり

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形・地質	文献調査	文献名	「5万分の1土地分類基本調査(都道府県調査)」 (国土交通省ホームページ)		
	現地調査の有無	有・無(実施日時)	聴取調査の有無	有・無	
	調査結果等	地形：河川周辺は主に「扇状地性低地」、その他の箇所は主に「砂礫台地」となっている。 地質：概ね全域が「未固結堆積物:砂礫を主とする地域」となっているが、一部で「半固結堆積物：砂層及び泥岩」となっている。 なお、天然記念物等に指定された重要な地形・地質は存在しない。			
(2)水象	文献調査	文献名	「桑名建設事務所管内図」(令和3年4月現在、三重県)		
	現地調査の有無	有・無(実施日時)	聴取調査の有無	有・無	
	調査結果等 河川、湖沼	計画地周辺における主要な河川として、員弁川及び同水系の貝野川、田切川、相場川等が存在する。			
	海域	-			
(3)気象・大気質等	調査の方法	気象：員弁北分署観測所、桑名気象観測所の測定結果 大気質：大安中学校測定局(一般環境大気測定局)の測定結果 水質：員弁川(桑部橋、日の出橋)の測定結果 騒音・振動：いなべ市内の測定結果			
	調査結果	1) 気温：平均気温 15.1 (令和3年、員弁北分署観測所) 2) 降水量：2,481mm/年(令和3年、員弁北分署観測所) 3) 最多風向：西北西(令和3年、桑名気象観測所) 4) 平均風速：2.4m/s(令和3年、桑名気象観測所) 5) 大気質：最寄り観測所(大安中学校)の年平均(令和2年度) SO <sub>2</sub> :0.000ppm NO <sub>2</sub> :0.006ppm SPM:0.010mg/m <sup>3</sup> 6) 水質：員弁川(桑部橋、日の出橋)の測定結果(令和2年度) pH・SS・DO・BODのいずれも環境基準達成 7) 騒音：いなべ市内の一般環境騒音・道路交通騒音測定結果 環境基準を達成 8) 振動：いなべ市内の道路交通振動測定結果 振動規制法に基づく要請限度を達成			
(4)生態系等	文献調査	文献名	「三重県レッドデータブック2015」(平成27年3月、三重県)、 「いなべ市の自然」(平成29年3月、いなべ市教育委員会)、 いなべ市ホームページ		
	現地調査の有無	有・無(実施日時)	聴取調査の有無	有・無	
	調査結果等 植物	植生の概要：ルートは、落葉広葉樹林(二次林含む)、常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地、市街地等を通る。  貴重な植物個体：三重県レッドデータブック2015によると、この地域周辺に分布する又は記録がある絶滅危惧のある貴重な種として、フジワラサイコ、イナベアザミ等75科224種の植物が確認されている。また、「第4回自然環境保全基礎調査」(環境庁)及び「第6回自然環境保全基礎調査」(環境省)で確認されたスギ・イチヨウ等の巨樹が存在する。  貴重な植物群落：「第5回自然環境保全基礎調査」(環境庁)で確認された特定植物群落の「向平湿原のサクラバハノキ林」が存在する。			
動物	貴重な動物：「三重県レッドデータブック2015」(三重県)および「いなべ市の自然」によると、この地域周辺に分布する又は記録がある絶滅危惧のある貴重な種として、哺乳類はカモシカ・テングコウモリ等4目6科8種、鳥類はイヌワシ・クマタカ等11目13科29種、両生類はダルマガエル・ヒダサンショウウオ等2目3科4種、魚類はネコギギ・イワメ等7目10科12種、昆虫類はタガメ・ツマグロキチョウ等10目52科97種、クモ類はスズカホラヒメグモ・カネコトタテグモ等1目7科8種、陸産貝類はヤマメタニシ・シリボソギセル等2目17科28種が確認されている。なお、いなべ市では国指定天然記念物の魚類であるネコギギの繁殖・稚魚放流等の保護活動を行っている。				

(5)自然景観・文化財等	文献調査	文献名	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」 (令和元年、環境庁)		
	現地調査の有無	有・無(実施日時: R3年10月)	聴取調査の有無	有・無	
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要: 主要な眺望点として、さくら公園が挙げられ、畑や水田が眺望景観を特徴づけている。(現地確認で把握)</p> <p>貴重な自然景観: 自然景観資源として、「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(平成元年、環境庁)によると、京ヶ野段丘、畑毛段丘が挙げられる。</p>			
	文化財、 史跡、 名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物: ルート周辺には、国・県・市指定の史跡・名勝・天然記念物はないが、いなべ市無形民俗文化財である「下野尻春日神社奉納獅子舞」が存在する。</p> <p>埋蔵文化財包蔵地: ルート周辺には、内貝戸遺跡、四辻遺跡等、多数の遺跡が分布している。</p>			
	野外 レクリエーション他	特になし			
(8)その他、自然災害等	「いなべ市地域防災計画」及び「三重県災害発生の記録」によると、いなべ市内では過去30年において西之貝戸川等における土石流や、平成10年の台風被害が生じている。				

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

\*用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

	事業計画案	比較検討（案）	比較検討（案）
(1)計画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3案のうち南側を通過するルート</li> <li>・延長約5.3km</li> <li>・平面・切土・盛土構造</li> <li>・一部現道を活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3案のうち中間を通過するルート</li> <li>・延長約4.6km</li> <li>・平面・切土・盛土・トンネル構造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3案のうち北側を通過するルート</li> <li>・延長約6.0km</li> <li>・平面・切土・盛土構造</li> </ul>
(2)環境評価（*左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入） 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎとうるおいのある快適な環境の創造			
-1 地球温暖化防止	延長が比較案の中で2番目に長い（約5.3km）、バイパス整備に伴う交通の転換により、走行距離が短くなり温暖化影響は低減される。（約8kmから約5.3km）	延長が比較案の中で最も短い（約4.6km）バイパス整備に伴う交通の転換により、走行距離が短くなり温暖化影響は低減される。（約8kmから約4.6km）	延長が比較案の中で最も長い（約6.0km）バイパス整備に伴う交通の転換により、走行距離が短くなり温暖化影響は低減される。（約8kmから約6.0km）
-2 廃棄物対策	現道を利用することで切土量は抑えられているが、廃棄物（伐採木）の発生量は2番目に多い。	トンネルにより切土量は最小限に抑えられ、廃棄物（伐採木）の発生量は最も少ない。	切土量が最も多く、これにより廃棄物（伐採木）の発生量は最も多い。
-3 生活環境の保全	下相場地区（約35m）、向平地区（約215m）、西貝野地区（約30m）、東貝野地区（約30m）に接することとなる。地区に隣接して通過する距離は、比較案の中では2番目に短くなる。	下相場地区（約35m）、向平地区（約355m）に接することとなる。地区に隣接して通過する距離は、最も長くなる。	下相場地区（約35m）、向平地区（約110m）、畑毛地区（約40m）に接することとなる。地区に隣接して通過する距離は、比較案の中では1番目に短くなる。
-4 その他重点項目	舗装やガードレールについては、再生資材や県産材（間伐材）の使用に努める。	舗装やガードレールについては、再生資材や県産材（間伐材）の使用に努める。	舗装やガードレールについては、再生資材や県産材（間伐材）の使用に努める。
-5 その他重点項目	東貝野～向平区間の工事におけるCO2排出量においては、現道を利用することで最も少なくなる。	東貝野～向平区間の工事におけるCO2排出量においては、トンネル工事のため最も排出量が多くなる。	東貝野～向平区間の工事におけるCO2排出量においては、切土量が多く2番目の排出量となる。
-1 野生生物等の生育空間の確保	現道を利用することにより、野生生物等の生育空間や獣道等の移動路を極力避けるように配慮している。	丘陵地をトンネルで通過することにより、野生生物等の生育空間や獣道等の移動路を極力避けるように配慮している。	切土により一部山を切り開く区間があり、野生生物等の生育空間や獣道等の移動路を分断している。
-2 希少な野生生物の保護	田切川ではネコギギの生息が確認されており、渡河橋の工事の際には事前に生息調査を実施し、確認された場合は移殖を行う。	田切川ではネコギギの生息が確認されており、渡河橋の工事の際には事前に生息調査を実施し、確認された場合は移殖を行う。	田切川ではネコギギの生息が確認されており、渡河橋の工事の際には事前に生息調査を実施し、確認された場合は移殖を行う。
-3 地形、地質等の改変の抑止	現道を利用することで切土・盛土構造の区間は2番目に短くなる。（切土・盛土量合計20.9万m <sup>3</sup> ）	トンネルにより切土・盛土構造の区間が最も短くなるが、トンネルによる地下水の流れへの影響が懸念される。（切土・盛土量合計16.8万m <sup>3</sup> ）	切土・盛土構造の区間が最も長くなる。（切土・盛土量合計44.2万m <sup>3</sup> ）

	事業計画案		比較検討(案)		比較検討(案)	
-4 その他重点項目	-	特になし	-	特になし	-	特になし
-1 緑化、周辺景観との調和		現道を利用し眺望景観との調和に配慮した。切土や盛土の法面は在来種を活用した土工法面等の緑化に配慮した。		トンネルは眺望景観に寄与するが前後のバイパス道路については眺望景観に影響する。切土や盛土の法面は在来種を活用した土工法面等の緑化に配慮した。		切土が大きく眺望景観に影響する。切土や盛土の法面は在来種を活用した土工法面等の緑化に配慮した。
-2 親水等、ふれあい空間づくり	-	該当なし	-	該当なし	-	該当なし
-3 その他重点項目		埋蔵文化財包蔵地の通過延長は約710mとなる。ただし、直接的に通過しないよう、現道の利用や外周線上で避けるよう配慮した。内貝戸遺跡(約440m) 四辻遺跡(約130m) 東貝野分教場裏遺跡(約140m)		埋蔵文化財包蔵地の通過延長は約740mとなる。ただし、直接的に通過しないよう、現道の利用や外周線上で避けるよう配慮した。内貝戸遺跡(約440m) 四辻遺跡(約130m) 向平遺跡(約60m) 西条遺跡(約110m)		埋蔵文化財包蔵地の通過延長は約760mとなる。ただし、直接的に通過しないよう、現道の利用や外周線上で避けるよう配慮した。内貝戸遺跡(約440m) 四辻遺跡(約130m) 畑毛遺跡(約150m) 東貝野分教場裏遺跡(約40m)
上記以外の特記事項		費用対効果は最も大きい。 事業費(3,905百万円(税抜)) B/C(4.4)		費用対効果は2番目に大きい。 事業費(7,025百万円(税抜)) B/C(2.5)		費用対効果は3番目に大きい。 事業費(7,084百万円(税抜)) B/C(1.3)

#### 5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	バイパスの整備により交通が転換されることで、走行距離が短くなり温暖化影響の低減が期待される。
短所	バイパス整備による地形改変は避けられないことから、希少な動植物に影響する可能性は排除できない。